

取材先	盲導犬ボランティア・エールの会		
企画名	盲導犬ボランティア20周年記念講演		
備考			
取材日	2023年7月29日(土) 天候[晴れ] [13:00~14:30]	取材地	しものせき市民活動センター

「盲導犬ボランティア20周年記念講演」に会員や下関鉄道少年団の子どもたちなど合わせて65名が参加しました。下関には1頭もいなかった盲導犬も、現在では4頭が活躍しています。

代表の竹内さんは、「身の丈で参加する無理のない活動によって20年間続けて来られた。これからも自分たちで今やれることをしていきたい。」と話された。盲導犬と共に歩んでおられる4名のユーザーの方も、それぞれの思いを語った。「盲導犬と出会ったことにより、生活の範囲が広がり、一人で出歩くことが出来るようになった。自分にとっても家族にとっても大きな喜びだ。」と語られた。

九州盲導犬訓練センターの伊藤訓練士によるデモンストレーションも行われ、盲導犬になれる犬はどんな犬なのか、どう仕事を教えていくのかなどを教えて頂いた。実際に盲導犬として活躍出来るのは10頭中3頭~4頭で、生誕~2か月は繁殖ボランティアに、2か月~1歳まではパピーウォーカーによって育てられ、訓練を経て2歳~10歳まで盲導犬として活躍し、引退後はリタイヤボランティアのもとで暮らし、生涯をたくさんの人と関わりをもちます。20年前までは、子犬を育てるパピーウォーカーをお願いするのさえ難しかったそうです。盲導犬への理解が広まったことにより、今では多くの方からボランティア希望があるそうです。

盲導犬への理解が広がったといってもユーザーの方々は皆さんにお願いしたいことがあるそうです。中でも、危険が迫っている時(信号の色が赤だった等)盲導犬には判断できない事態が起こった時にはユーザーに声をかけて欲しいと言われていました。私たちが盲導犬への理解を持つことで、ユーザーと盲導犬が安心して生活出来る環境をつくるお手伝い出来るのだなと実感しました。このことを心にとめ、機会があった際にはぜひ協力したいですね。



竹内代表



盲導犬ユーザーの皆さん



デモンストレーションの様子



伊藤訓練士

